

### 移民国家としてのオーストラリア

ヨーロッパ人の入植が開始されて以来、オーストラリアは国家的アイデンティティを「移民国家」「英語を話す国」という2つの理念を柱にして発展させてきた。現実には、多くの先住民と移民の言葉を含む多言語国家であるが、この事実は国家言語としての英語の地位にほとんど影響を与えてきていない。

20世紀の中ごろまでは、イギリスとアイルランドからの移民が大多数を占めていたため、移民の存在が「英語を話す国」という言語理念への挑戦として現れることはなかった。この挑戦が始まったのは、第二次世界大戦後にヨーロッパの大陸部から相当数の非英語話者がオーストラリアへ到着するようになってからであった。それ以来高い移民数を維持しており、10年ごとに約100万人の新しい移民が到着するという状況が60年間にわたって続いている。

1950年から1960年代の移民の出身国は、英語を話す国であるイギリスとニュージーランドが最上位であり、非英語圏としては、チェコスロバキア、ドイツ、ギリシア、ハンガリー、イタリア、オランダ、トルコ、ユーゴスラビアなどがあつた。

1973年にすべての移民関連法制から人種条項が除かれ「白豪主義」が廃止されるとアジアからの移民が顕著となる。はじめの大規模な移入はベトナム戦争によるインドシナからのグループであった。

2007～2008年の移民出身国には、ニュージーランド(18.5%)、イギリス(15.6%)、インド(10.3%)、中国(8.7%)、フィリピン(4.1%)、南アフリカ(3.5%)、マレーシア、スリランカ(それぞれ24%)、ベトナム(1.8%)、韓国(1.7%)が上位にあり、その他にもほぼ世界中の国々があがっている。

大きな国土に少ない人口という条件にあるオーストラリアは、過去60年間で移民政策を経済発展の手段として行ってきた。そのため英語ができるということは、個人にとっても国家全体にとっても、決定的な要因として考えられるようになっていったのである。したがって機能的英語力(functional English)を持たない移民に対して無料の英語教育を提供することは、オーストラリアの移民政策の土台となったのである。

#### The Adult Migrant English Program (AMEP) の歴史

Adult Migrant English Program (AMEP, 成人移民英語プログラム) による移民への